



思いは「心がほっこりする年」

2016年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。

と、毎年こうした年始向けの文章を作成しているのは、12月半ば。師走の慌ただしさに加え、前回触れた通り世間も業界も落ち着かない状況が続いているものの、忙中閑あり？ というこで、高校時代の友人と一緒にあるイベントに出かけて来ました。

そのイベントとは、1970年代から80年代にかけて人気を集めた「ヤンヤン歌うスタジオ」という歌番組の、復活コンサートなるもの。同番組は、あのねのねが司会を務めてアイドルたちが歌やコントなどを披露する内容で、今回約20年ぶりに当時の出演者たちが一堂に会すること。昔の歌謡曲が好きな私と友人はチケット発売日当日に申し込んだものの、座席は中程の位置でやっと取れたほどの人気ぶりです。

果たして公演当日、会場となった中野サンプラザに行くと、ロビーには我々と同年代とおぼしき“アラフィフ”の男女が数百人集まり、かなりの熱気が溢れていました。中に入る際、係の方から「年齢用シャンプー」の試供品を頂き友人と苦笑いしたものの、ステージが始まると一気に会場ごとタイムスリップしたかのような雰囲気。…あ～、こんなセット

だったわ、とか歌声変わってないね～、など元アイドルたちのステージを楽しみつつ、ふと他の座席を見ると、なんと何か所も「ファン」いや、当時の言葉で「親衛隊」が復活し、派手な色の法被を着込んだそれぞれが、目当ての歌手に大

きな声援を送っているではありませんか。中には、懐かしい紙テープを投げている人たちまでいて、びっくりしましたね。

イベントは一時代を築いたアイドルたちがヒット曲を歌うだけでなく、コントや物まねなど盛り沢山で、結局3時間を越す長丁場となりました。一緒に歌ったり笑ったり手拍子したり、しばし非日常を楽しんだ私たちがロビーに出ると、そこにはまたしても驚くような光景が…。何と、イベント中大きな声援を送っていた様々な歌手の親衛隊の方たちが、一堂に会して記念写真を撮ったりエールを送り合ったりしていたのです。おそらくですが、皆さん70～80年代当時から、こうした会場でお目当ての歌手を応援していらっしゃるのしょうから、交流がずっと続いていてもおかしくありません。

そんな、異様ともいえる光景を目の当たりにして最初は笑っていた私でしたが、なんだか心がほっこりしてきて、皆さんを羨ましくも感じましたね。私自身、若い頃から音楽や野球など様々なことに興味を持ち、首を突っ込んだりして来たものの、現在仕事としてパチンコに深く関わっている以外は長く続けていたり他者と交流を持っていることは、ほぼ皆無とっていい状態だからです。しかも、パチンコは基本一人で打つものですし、物を書く仕事も打ち合わせや取材以外は一人で進めねばなりませんから、改めて考えてみると淋しいものです（笑）。

とはいえ、高齢になってもイベントで弾けている人たちが沢山いるように、何かに能動的に関わっていくということは、いくつになってもできるはず。今年先入観や好き嫌いを取っ払い、何か興味のあることに関わっていくのも楽しいかもしれません。そうして私自身がほっこりと癒されたり、逆に仲間を嬉しい気持ちにさせたり、そんな一年になっていけば面白いのではないかと考えているのです。

MEMO★RANDOM

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(バジリコ、07年)



▲中野サンプラザにて、しばしタイムスリップしました